

平成23年度教育事業
ボランティアフォローアップセミナー
～スタードームプロジェクト～

講義や野外体験を通して、指導者やボランティアの立場から物事を改めて考えることができました。また、子どもと実際に活動することで、指導者としての実践経験や意識を高めることができました。

1 事業実施までの経緯

子どもたちの豊かな心をはぐくみ生きる力を身につけるためには体験活動が重要であることから、国は小学校が1週間程度の集団宿泊活動・自然体験活動を展開できるようにと環境の整備を進めている。この一環として、長期自然体験活動の指導者養成が求められている中で、当機構では長期自然体験活動の全体指導者または補助指導者としての養成ならびに登録を行っている。

しかしながら、長期自然体験活動の指導者として登録を行っていても、指導者として活用する機会が少ないなど指導者養成へ向けた課題が多くなっている。この課題を解消できるように、当事業では長期自然体験活動の登録指導者に向けたフォローアップを計画した。

2 ねらい

独立行政法人国立青少年教育振興機構の法人ボランティアや全体指導者または補助指導者として登録をしている者に一定レベルの資質を確保するとともに、指導者としての活動を推進し、その活動機会の拡充を図るための養成を行う。

3 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 後 援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会

5 期 日 平成24年1月28日（土）～29日（日）【1泊2日】

6 場 所 国立大洲青少年交流の家

7 参加人数 22名

8 講 師・ファシリテーター

九州フィールドワーク研究会 布施 咲子 氏、木下 靖子 氏
愛媛県教育委員会 生涯学習課 青少年教育係 社会教育主事 西坂 淳 氏
茨城県青年団体連盟 会長 川西 栄次 氏

9 協力者等 青少年教育施設 法人ボランティア6名
大洲市立櫛生小学校児童 9名
大洲市立柴小学校児童 3名

10 日程・内容

(1) 日程

□ 1月28日(土)

10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	16:30	18:30	19:30	20:30	22:00
受付	開講式 アイス ブレイク	講義Ⅰ 体験活動の意義 講師：布施咲子氏	昼 食	体験活動実習Ⅰ 安全管理講習 スタードーム製作	オリエン テーション つどい 夕食	講義Ⅱ 体験活動の魅力 講師：西坂淳氏	ボランティア活動発表 協力者：法人ボランティア ファシリテーター：川西栄次氏	自由 入浴 交流	就寝 準備

□ 1月29日(日)

6:30	9:00	10:00	14:00	15:00	15:30
起つ朝 と 床い食	体験活動実習Ⅱ ミニスタードーム製作	野外炊飯・スタードーム体験 体験活動の指導法	ふりかえり	閉講 式	解 散
	※小学生日帰り体験（竹クラフト工作・野外炊飯）				

(2) 活動内容

【概要】

長期自然体験活動の指導者や自然体験活動に興味関心のあるボランティアを対象として、ドーム型ハウスであるスタードーム製作を活用した事業を行った。スタードームを発案した経緯から、子どもを対象にしたワークショップの事例発表や活用方法の講義を受けた。巨大ドーム製作は、多くの人数の協力が必要であることを再確認し、協働や体験活動をしていく上では重要な活動の一つとして感じることができた。また、1日目の夜には体験活動の魅力と題して、講師より無人島キャンプ体験について講義を受けた。指導者が子どもと関わる上でのポイントやキャンプ運営の様子など、子どもに対する体験活動の思いに触れた。2日目は、今年度で統廃合予定の小学校に通う児童12名を招いて、スタードーム製作や野外炊飯体験としてツイストパン作りやダッチオーブンをを用いた焼き芋作りを行った。活動の最後には、2日間のふりかえりを行い、子どもたちとの関わり合いを通して学んだことや体験したことを参加者同士で共有することができた。

ア 開講式・アイスブレイク

講師：企画指導専門職

当交流の家所長より事業概要の説明があり、これから体験する2日間に期待することが伝えられた。その後、講師の紹介とアイスブレイクを行い、参加者が事業に取り組みやすいように雰囲気作りを行った。はじめは少し緊張をしていた参加者であったが、時間が経過するにつれて徐々に笑顔が見られるようになり、これから始まる事業に向けて意識を高めることができていた。



イ 講義Ⅰ「体験活動の意義」

講師：九州フィールドワーク研究会 布施 咲子氏・木下 靖子氏

ドーム型ハウスであるスタードームを発案するまでの経緯や全国でスタードームの指導をしてきた事例を中心に講義を行った。円周18メートルの巨大ドームとして定着するまでには材料の選定や構造の改良に多くの時間を費やしてきたことがわかった。また、様々な工夫を凝らした天幕のデザインやドームの様子をスライド写真として見ることができ、斬新なデザインと活用方法に参加者は熱心に見入っていた。その後、子どもたちと一緒にドーム製作を実施した事例発表を聞いた。その中で、子どもたちが自由な発想でドーム製作を行ったことや設置されたスタードームの中で過ごした様子を知り、参加者はとても興味・関心を深めることができていた。



ウ 体験活動実習Ⅰ「安全管理講習」「スタードーム製作」

講師：九州フィールドワーク研究会 布施 咲子氏・木下 靖子氏

円周18メートルの巨大ドーム製作を行った。まず、作業する上で安全管理について説明を受けた。その後、組み立てる上で間違えやすい、つなぎ目にある紐の結び方の説明を受けた。骨組みとなる星型の枠を模った天井部分ができた後は、全員で骨組みの柱を持って、一斉に柱を持ち上げた。柱が立ち上がった瞬間は、想像していた以上に大きく、参加者より大きな歓声があがっていた。完成されたスタードームの中は広い空間で、参加者も中に入っては空間の広さに驚いていたようであった。



今回のドーム製作は、複数の人手が必要になることで協働作業体験をすることができた。製作中は、参加者がお互いに声を掛けあったり、作業が難しいところは助けあったりと指導者の立場を意識しながら行動することができていた。ドーム完成後、天幕を広げてドームの中でミニスタードームの製作を行った。ミニスタードームで緻密な構造を学ぶことで、ドーム製作における指導のポイントを理解した。その成果もあってか、この後にもう一つの円周18メートルのドーム製作をしたが、わずか30分程度で組み立てることができていた。

ドーム製作の体験を通して、ドームの活用方法などを熱心に話す参加者もおり、空間作りから空間を利用した活動へと意識付けができ、体験活動として活用する可能性へと広がっていく様子が感じ取れた。

エ 講義Ⅱ「体験活動の魅力」

講師：愛媛県教育委員会生涯学習課青少年教育係 社会教育主事 西坂 淳氏

講師が実際に活動を行っている「御五神島」無人島キャンプの運営の事例発表を行った。キャンプに参加する子どもたちが変化していく様子を具体的に聞いて、キャンプによる自然体験が子どもたちの健全育成に効果的であることを実感することができた。さらに、講義資料の中には体験活動の効果を分析したデータも用いられており、数値として明確に体験活動の魅力を理解することができた。また、実践者として活動している者の話を聞くことで、講義を受けた参加者からはキャンプの様子を質問したり、子どもたちの指導の仕方について質問したりと様々な意見があり、参加者にとって有意義な時間となっていた。



オ ボランティア活動発表

ファシリテーター：茨城県青年団体連盟会長 川西 栄次氏

協力者：国立徳地青少年自然の家法人ボランティア・国立阿蘇青少年交流の家法人ボランティア・国立大洲青少年交流の家法人ボランティア

ファシリテーターによる司会進行から国立青少年教育振興機構の法人ボランティアを中心にボランティア活動の事例発表を行った。県外のボランティア活動は普段知ることのない情報であり、参加者は興味・関心をもって聞き入っている様子であった。活動発表後、ファシリテーターより、翌日の役割分担と役割を意識してもらうプログラム体験を行った。参加者一人一人に一枚の写真を渡し、自由に順番に並ぶというシンプルな指示を受けた。時間が経過するにつれて、渡された写真のお互いの共通点を見つけると、各自が相手に対して指示を出したり、自らが行動したりとそれぞれが役割に気づきはじめた。



このプログラム体験を通して、参加者は自分自身の行動をふりかえってもらい、主体的に行動することや役割について考えてもらうことができていた。

カ 体験活動実習Ⅱ・野外炊飯・スタードーム体験

講師：九州フィールドワーク研究会 布施 咲子氏・木下 靖子氏

協力者：大洲市立櫛生小学校児童・大洲市立柴小学校児童

子どもたちを迎えて、ペーパークラフトによるミニスタードーム製作や、ツイストパン作りと

ダッチオーブンを活用した野外炊飯体験、円周18メートルのドームの製作を行った。はじめは緊張していた子どもたちであったが、レクリエーションや野外炊飯体験を通して、徐々に子どもたちの雰囲気明るくなっていった。

子どもたちが自ら率先してパンの形を作ったり、ダッチオーブンの焼き芋を取り出したりと積極的に活動をしていた。また、円周18メートルのドーム製作を、子どもたちと参加者全員で行い、世界に一つしかないスタードームができあがった。最後にスタードームを製作した証として修了証を子どもたち一人一人が受け取ると、とても満足そうな表情をしていた。

キ ふりかえり

ファシリテーター：茨城県青年団体連盟会長 川西 栄次氏

2日間の日程を終えて、各自の行動や気持ちをふりかえった。まず、スタードームの空間を利用して様々な感情を表す一文字が書かれてあるカードを並べ、現在の思いに近い文字を参加者に選んでもらった。

スタードームの中で行うふりかえりは、参加者同士が近い距離で話すことができ、和やかな雰囲気を作っていた。また、参加者も自然と思いを相手に伝えることができおり、2日間を通して参加者同士のネットワークも広く築くことができていた。



1 1 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：58.3% *やや満足：41.7% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 初めての体験ができて本当に良かった!!
- 青年を育成するボランティアというところが良かったです。
- 初めてのことばかりで参考になっただけでなく、自分自身をみなおすことができよかったです。ありがとうございました。

1 2 成果・課題

県内において長期自然体験活動の実践機会が少ない現状を踏まえ、長期自然体験活動の全体指導者や補助指導者として登録している者に活躍の機会やフォローアップ研修の場が必要であると考え、当事業を実施した。

参加者の中には全体指導者や補助指導者として登録している者も多く、当事業の実施によって指導者のフォローアップとしての機会を提供することができた。事業の講師にも、全体指導者として活躍している方を選定し、長期自然体験活動を実際に企画・運営した体験談を指導者の視点で紹介した。自然体験活動の良さだけでなく指導者として活躍することの重要性を深めることができていた。2日間の事業の中でスタードームと呼ばれる巨大ドーム作りを中心に展開したが、スタードーム製作の中で、協力、協働すること、また自由な発想で空間を創造することを理解することができた。2日目には近隣の小学生を迎え、自然体験活動に必要な技能や安全面での指導を実体験した。指導者として実際に子どもとかわる体験や機会が少ないため、参加者にとっては貴重な実践の場となっていた。

スタードームの実践は、四国で初めてということもあり、今後活用できる魅力的な素材を提案することができた。また、この事業で自然体験活動に対するモチベーションや指導スキルを高めた参加者の積極的な自然体験活動の推進や現場での活躍が期待される。

